

職員による自己評価

A環境面

利用者の人数によっては狭く感じることもあり。

B児童への支援内容

商業地域の特性活かし、買い物などいくところがある。

公共交通機関を利用し通所帰所の支援をしている。

2022年7月～外出行事再開。

C関係機関との連携

基幹センターや区役所のワーカー、学校、計画相談員と連絡を密にしている。

D保護者への説明責任・信頼関係

面談を半年に一度行っている。

何かあればすぐ保護者に連絡している。

E非常対応

保護者の携帯に連絡

保護者による評価

A環境面

バリアフリー化されていないところがある。

利用者数によっては狭く感じることがある。

B児童への支援内容

特になし

C事業所からの情報発信

面談を半年以内に行っている。

2022年度保護者会、二回開催。

D非常対応

問題なし

事業所内での分析

【共通点】

非常時の対応。活動内容の見直し。

買い物学習は休日に買い弁などで対応している。

【相違点】

活動プログラムに関して、固定化しないよう工夫しているが、学習がメインのため固定化されているように感じているのではないかと。年齢相応の楽しめる学習（生活スキルアップ含む）内容を検討していく必要あり。

分析・検討してみても…

事業所の強み

生活スキルを身につけるための、取り組みを色々行う環境が整っている。

公共交通機関を使った自力での利用にむけての支援をしている。

就労、自立にむけての学習支援をしている。
金沢文庫と併用利用することで、就労に向けて下級生の面倒をみるなど、スタッフの手伝いを指示に従って行動できるようになる。

教員や保育士、介護職の経験があるスタッフ
がおり、多様なサービスの提供ができる。
また学生アルバイトも多くおり、いろいろな
年齢層のスタッフとかわかっている。

事業所の改善点

日野中央特別支援学校などの受験に向けて、
また、就労に向けての取り組みをどうしてい
くか。

学習支援、就労支援に対し内容を検討してい
く必要あり。

スタッフのスキルアップのための研修会な
ど。

それぞれの利用者の特性にあった支援の見直
し。

ホームページ更新をこまめにし、また保護者
会などの開催を通して、プレッの支援、活
動内容を知ってもらうこと。

事業所の改善への取り組み

- ・学習を通して生活スキルアップ、就労、自立へ向けての取り組みを試行錯誤しながらスタッフと取
り組んでいきたい。
- ・利用者の特性にあった支援をスタッフで共有し取り組んでいきたい。
- ・保護者のニーズにあった支援を今後もできるだけ提供していきたい
- ・コミュニケーション能力を向上し、自分の特性を理解できるように支援していきたい。
- ・意思決定支援に対し取り組んでいきたい。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・金沢文庫プレッからの利用者が多く利用期間が長いため、高評価をいただけたと思います。
今後も世の中の状況を見ながら、個々の特性を理解し保護者と利用者本人のニーズに合わせた支援をして
いきたいと思っています。